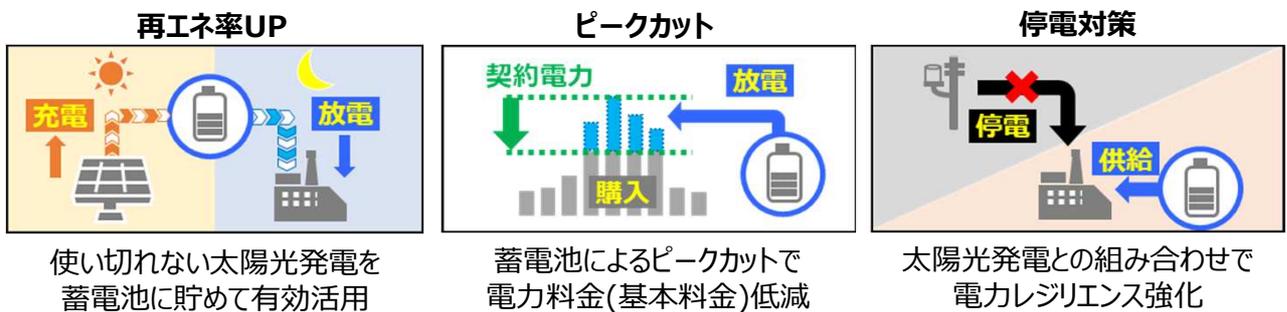


蓄電池活用ソリューション

蓄電池併設で太陽光発電を有効活用

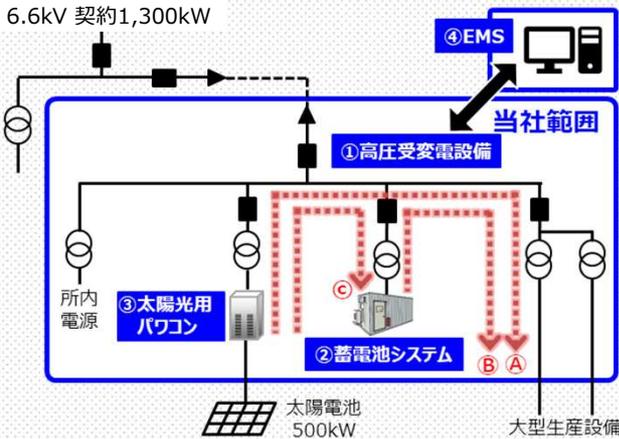
脱炭素の動きが強まり企業や自治体はCO₂削減に向けた取り組みを加速させています。中でもカーボンニュートラル実現に向けた取り組みとして太陽光発電の導入が目立っています。しかし、太陽光発電は日中のみの発電であることや、天気によって左右され不安定といった欠点があります。その欠点を補う方法として蓄電池併設があります。また、近年では蓄電池を併設する太陽光発電に補助金が出るといった傾向もあります。

▶蓄電池併設のメリット

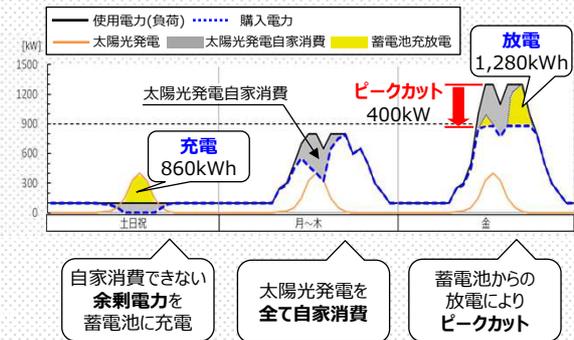


適用事例

導入設備(当社範囲)：①高圧受電設備 ②蓄電池システム (500kW-1,500kW) ③太陽光用パワコン (500kW) ④EMS



▶運用イメージ



▶導入目的

- ①太陽光発電の自家消費による
電力量料金低減・環境負荷低減
- ②ピークカットによる基本料金低減
- ③太陽光の余剰電力活用
工場休業日等で使い切れなかった太陽光発電を蓄電池に充電しピークカットに使用

[削減期待効果]

電気料金 年間約**2,100万円**
(①1,000万円、②870万円、③250万円)

CO₂排出 年間約**250t-CO₂**
(①200t-CO₂、②50t-CO₂)

電気料金単価が上がれば効果もUP!

ICP導入で150万円※相当の価値

※ICP(インターナルカーボンプライシング)の設定価格を製造業の価格中央値6,800円/t-CO₂とした場合

このような用途にも適用できます

1

特高回避

工期や設備費を低減

蓄電池によるピークカットで契約電力を2,000kW未満に抑えることで、特高契約になることを回避できます。当社は特高設備メーカーですが、特高回避目的での蓄電池システムの導入実績もあります。お客様にとって最適なシステムをご提案しますのでお気軽にお問い合わせください。

▶ 特高送電線がないエリアでの高圧連系を可能に

特高送電線が近くにないエリアで特高契約をする場合に生じる送電線工事の工期や負担金の課題がなくなります。

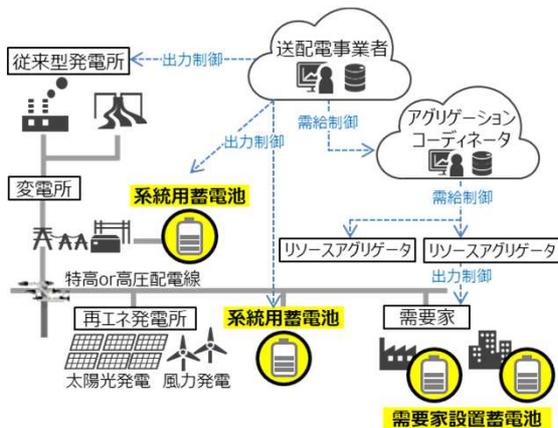
▶ 生産設備増加による特高への契約変更を回避

特高を利用する場合に必要な特高送電線を引き込む鉄塔や変電設備等の設置が不要になります。

2

需給調整力

蓄電池に需給調整力としての価値を追加



▶ 系統用蓄電池

電力の需給調整力として、容量市場(kW価値)、需給調整市場(ΔkW価値)、卸市場(kWh価値)等での収入を組み合わせることで投資回収していくビジネスモデルで導入加速が期待されています。

▶ 需要家設置蓄電池

蓄電池を使用していない時間帯・曜日等が決まっていれば、アグリゲータの要請に応じ蓄電池を充電・放電させることで報酬を得ることができます。

システム提供

受変電設備から蓄電池までトータルエンジニアリング

日新電機が長年培ったノウハウでお客様のご要望にトータルエンジニアリングでお応えします。

STEP1 ヒアリング

ご要望や運用状況等をヒアリング

STEP2 簡易シミュレーション

システム容量や機器等をご提案

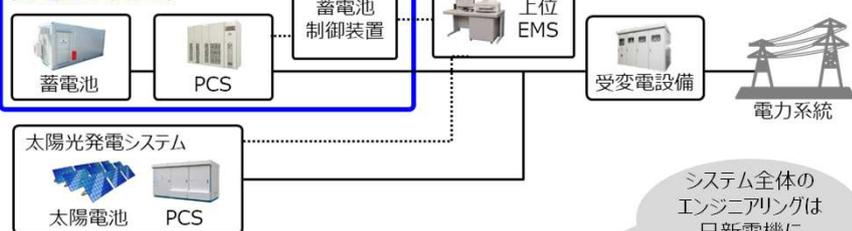
STEP3 申請補助

連系申請資料の作成支援

STEP4 導入・メンテナンス

導入・点検及び部品交換サポート

蓄電池システム



システム全体の
エンジニアリングは
日新電機に
お任せください

人と技術の未来をひらく
日新電機株式会社

〒615-8686 京都市右京区梅津高畝町47番地
TEL (075) 861-3151 (代表) FAX (075) 864-8312 <https://nissin.jp/>

お問い合わせ先

電力・環境システム事業本部 産業営業部 東京支社 (03)6739-9702 中部支社(052)561-5513 関西支社(06)6444-7545